

## チュチェ思想が明らかにする民衆の自主性と社会主義 —金日成主席の業績—

チュチェ思想国際研究所副理事長  
ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会書記長  
マッテオ・カルボネリ

わたしは最初に、金日成主席生誕 110 周年にさいして本セミナーを開催されたチュチェ思想国際研究所のラモン・ヒメネス・ロペス理事長と、尾上健一事務局長に祝意を申し上げたいと思います。わたしはまた、本セミナーにご参加くださり、成功に寄与されたみなさん方にも祝意を表します。

わたしは、すでに発表されましたスピーチをととても興味深く拝聴いたしました。これらのスピーチは、朝鮮の歴史ならびに国際社会主義運動においてはたされた金日成主席の重要な役割について、また、さまざまな様相を呈する現代世界において、金日成主席が創始されたチュチェ思想のこんにちの意義について、焦点を当てていました。

金日成主席は、正真正銘の卓越した指導者であり、朝鮮が自主をかかげて社会主義を発展させるために献身されたことは周知のことであり、金日成主席の風貌や教えは、朝鮮人民のみならず、世界の進歩的人民のなかに生き生きと息づいています。金日成主席はまた、じつに優れた思想理論家であり、人民の自主性や社会主義建設のための新たな思想体系、チュチェ思想を創始しました。本セミナーにおける各地域の代表によるスピーチのなかで言及されていた、チュチェ思想にかんする言及はみな、チュチェ思想の恒久的な有効性と正当性を立証するものとなっています。チュチェ思想の本質的な特徴については、すでに長いあいだおこなわれてきたチュチェ思想研究普及活動によって、広く知られていることでもあります。

それゆえ、わたしは、ある一つの問題意識をもってスピーチをおこないたいと思います。それは、つぎのような問いかけをすることから始めたいと思います。ヨーロッパ、なかでも西ヨーロッパや、それ以外でも個人主義や人権について議論する傾向のある歴史や文化、社会経済制度を有する国々では、しばしば、弱肉強食論や消費を重視した経済政策をよしとする考えが強調されて混乱が生じています。このような地域や国々に関心を寄せるのではなく、なぜ、わたしが、遠く離れたアジアの国で数十年も前に創始された学説に関心をもちているのかという問いに答えることから、スピーチをはじめたいと思います。

答えは、簡単です。なぜならチュチェ思想は、さまざまな状況において有効性をもつ哲学的方法論を明らかにしているからです。具体的には、人間を出発点とし、人間をあらゆるものの中心に据えるという、哲学的方法論を明らかにしているからです。チュチェ思想が明らかにした、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという哲学的原理は、人間は、人間のもつ意識性や意志によって、自然を改造し、現在の状況や社会関係を変革していくことができる存在であるということの意味します。

ここから、チュチェ思想をまったく新しい人文主義とみなすことができます。チュチェ思想は、人間とその潜在力を高く評価し、人と人々が互いに協力しあうことにより、人間があらゆる恩恵の主要な受け手になるとみなします。人間をどのように評価するかについては、人間について論ずる哲学や社会理論の主要な関心事でありました。それゆえ、人間にたいする理解は、古代以来、人間が特権的な地位にあったギリシャ-ローマ時代から、資本主義や市場経済が席卷する前のルネッサンス期まで、とりわけイタリア人文主義を頂点とする西欧文化にいたるまで、特別の関心が持たれていました。

人間は、共同体のなかで生活する社会的な存在であるがゆえに、人間の能力の全面的な開花は、人間が所属する共同体のなかでのみ、互惠を保障する共通の目的を達成しようとするなかで、同じ共同体の人たちと協調しあいながら、

実現することができます。明らかに、人間が世界において最高位を占めるというのは、自由奔放に個人主義を貫いたり、強者が弱者を搾取抑圧するという弱肉強食の法則とは、なんの関係もないことは明らかです。

チュチェ思想は、搾取と抑圧、不正をなくすことを求めますし、公正や平等、連帯を実現しようとしています。チュチェ思想は、個々人が、自らが所属する共同体のなかに自己の真の自由や自主性を実現しようとして、このようなたたかいをおこなうことを明らかにしています。なぜなら、個々人は、自らが所属する共同体が自由で自主的であるときにのみ、自由で自主的でありえるからです。

チュチェ思想は、根本的に、民衆に依拠した自主の思想、自主権や社会主義の思想であるということが出来ます。周知のとおり、チュチェ思想は、実践や、数十年にもわたる闘争や政権をになった実際の経験にもとづいて金日成主席によって創始された思想です。チュチェ思想は、最初は朝鮮人民が、植民地的支配のくびきから自らを解放するようにし、つぎには、帝国主義の攻撃から自国の自主性を擁護し、社会主義社会を発展させながら、強力な自衛国家を建設するよう、導いてきました。

金日成主席は、外国勢力の支援や主張に依存する分派主義者に反対して、つぎのように強調しました。

「革命を勝利に導くためには、大衆のなかに入り、大衆を組織し、革命と建設で提起されるすべての問題を、他人に頼ることなく、実情に即して自己の責任で自主的に解決していかなければなりません」

「革命闘争の主人は民衆であり、民衆が組織され動員されてこそ、革命闘争を勝利させることができます」

朝鮮革命の道で、金日成主席はこのように述べ、分派主義や事大主義に反対し、革命党を基層組織から建設すると同時に、教条主義や形式主義を一掃し、最終的に思想活動におけるチュチェを確立しました。

チュチェ思想は、決定論や物質や経済的要因を過度に重視する理論など、以前の理論の制限性を克服して、新しい独創的な見解をうちだしました。人間があらゆるものの主人であるとして、チュチェ思想は、世界の主人としての人間の地位と役割にもとづいて、世界にたいする新たな観点と立場を明らかにし、マルクス・レーニン主義を乗り越えました。人間を重視し、人間中心の立場をとることにより、チュチェ思想は、人間の利益を守るという観点から世界にアプローチする新しい学説となりました。

マルクス・レーニン主義が、ある一定の歴史的期間を詳しく解説し、その時期に革命を成就させ、政権を樹立させるための条件について考察したのにたいして、チュチェ思想は、人間の本質的特徴が自主性、創造性、意識性であると定義づけ、いかに革命を継続し、継続的な思想活動により人民の需要を満たすことができるよう政権を維持できるかについて明らかにしている、普遍的で時代的制約性のない学説です。

チュチェ思想にもとづくことにより、金日成主席は、1945年には朝鮮を植民地主義より解放し、1953年には朝鮮への帝国主義の攻撃を停止させました。そして、野蛮な帝国主義によってもたらされた廃墟と焼け跡から不死鳥のようによみがえり、伝説の千里馬のような驚嘆する速さですすめられる、新しい人民朝鮮の建設を導きました。かつては野蛮な戦争によりすべてが破壊されたにもかかわらず、こんにちのピョンヤンや朝鮮を訪問した人はみな、よく整備された緑の空間のなかに、立ち並ぶ素晴らしい建物や記念碑を見ることにより、朝鮮は、整然とした、人々の勤労意欲と自信に満ち溢れた社会であることがわかります。

チュチェ思想を適用することにより、金日成主席は、民衆中心の発展した社会主義制度を樹立し、朝鮮の社会主義は、民衆に最大の恩恵を与える社会主義であることを確かなものとししました。朝鮮では、1947年から勤労者にたいする無料医療制が実施され、1953年からは全人民にたいする全般的無料保健制度が

実施されるようになりました。1974年には税制度が廃止され、価格は下がり、完全な無料義務教育が実施され、住宅は事実上無料となっています。朝鮮には、失業者もホームレスも浮浪者もおりません。

民衆の生活水準を向上させるためのたゆみない努力を通じて、また、「以民為天」を自己の座右の銘として示すことにより、金日成主席は、人民があらゆるものに優先することを確かなものとし、そうすることで、何よりも民衆が、社会主義的なチュチェ思想を体得し、樹立された朝鮮の社会主義制度の擁護者であるようにしました。

いまみてきたのは、修正主義体制がもたらした失政により、ソ連・東欧諸国における社会主義が崩壊したあと、朝鮮が、社会主義の獲得物と自主性を擁護しながら、どのようにチュチェ思想と社会主義の道を前進していったかを示すものです。

ソ連・東欧諸国における社会主義の崩壊については、金正日総書記がチュチェ思想の観点から科学的に解明しています。金正日総書記は、社会主義の必然性と優越性を実際に示し、金日成主席によって創始されたチュチェ思想と先軍思想の革命的原則を高くかけながら、チュチェ思想の道、先軍の道をすすみ続けました。金正日総書記は、「わたしにいかなる変化をも期待するな」「われわれはチュチェの旗じるしのもとに強盛大国を建設するだろう」と宣言しながら、朝鮮人民と世界人民に社会主義偉業を擁護し発展させることを呼びかけました。

こんにち、金日成主席によって開始され、金正日総書記によって継続された活動は、金正恩総書記の指導のもとに遂行されています。金正恩総書記は、帝国主義による過酷で不公正な制裁や、軍事的圧力や挑発がおこなわれているにもかかわらず、人民の生活水準を向上させつつ、強力な自衛国家を建設しました。

金正恩総書記は、「金日成同志と金正日同志が切り開いた自主の道、先軍の道、社会主義の道をまっすぐに進むところに、朝鮮革命の百年大計の戦略があり、最終的勝利があるのです」(金日成主席生誕 100 周年慶祝閱兵式でおこなった演説 2012.4.15)と述べました。

金日成主席によって創始され、金正日総書記によって発展豊富化され、現在、金正恩総書記によって適用されているチュチェ思想がさし示している道は、自主の道、社会主義の道、帝国主義的抑圧と支配からの解放、資本主義的搾取の克服を保障する道であり、また、わたしたちすべてのチュチェ思想研究者が、公正な社会的関係をきずき、相互連帯と健全な発展をとげていく道です。